

■ 検討事項（下記について助言を頂く）

- ① H24年度の工事実施報告、H25年度の工事実施予定箇所について
- ② H24年度のモニタリング結果、H25年度のモニタリング予定について

■ 整備箇所のモニタリング計画

水域（位置）・地区名			平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度		
宍道湖	北岸	鹿園寺①地区	○	●	●	●	●	●									
		鹿園寺②地区				●	●	●									
		鹿園寺③地区									○			●			
		大垣①地区				○	●	●	●								
		大垣②地区								○					●		
		大垣③地区											○				●
		岡本地区										○					●
		秋鹿地区				●	●	●						○			
		西浜佐陀地区											○				●
	南東岸	布志名地区					○					●		■			
南岸	根尾地区								○				●				
南西岸	宍道①地区				○	○					●		●				
中海	西岸	大井①地区	(H12, 14, 15に植生護岸工事を実施)									○		■			
		大井②地区									○						
		大井③地区										○					
	南岸	錦浜地区								○					●		
		下意東地区	○	●	●	○●	●	●			●		■				
		新十神地区		○	●	●	●	●	●								
		細井地区								○					●		
	東岸	米子湾地区											○				
大崎①地区		○	●	●	●	●	●	●						●			
	大崎②地区				○	○			○					●			

○ …事前調査 ● …事後調査 ■ …改善工事後調査
 黄色 …施工年度
 赤 …施工年度・改善工事年度
 桃 …改善工事年度

※ 各整備箇所の位置は、資料-2のp6、7参照

■ モニタリング調査項目と内容

モニタリング調査項目		調査目的	調査対象となる整備			調査手法	実施頻度		
			浅場整備		覆砂		施工前	施工中	施工3年後
			宍道湖	中海	中海				
物理環境調査	基盤調査	整備した基盤の安定度を 確認	○	○		浅場整備箇所において、汀線から沖方向に測線を設定し、深淺測量を行う。 深淺測量後、施工中と施工後の重ね合わせを行い、変化量コンター図を作成し、基盤の安定度を確認する。		○	○
	水質調査	底質改善の効果を 確認		○	○	アクリル管等を用いて底質コアサンプルを採取し、湖底直上水と底質中の間隙水を採水し、無機態窒素・リンの分析を行う。	○		○
	底質調査	底質の物理的状況、 新生堆積物の状況等 を確認	○	○	○	アクリル管を用いて底質を深さ50cm程度でコア採取する。 底泥の堆積状況などを目視観察(写真撮影も実施)し、粒度組成、強熱減量、硫化物の分析を行う。	○		○
生物調査	主要二枚貝調査	主要二枚貝(宍道湖:ヤマトシジミ、中海:アサリ・サルボウガイ)の 生息状況を確認	○	○	○	25cm×25cmの方形枠内の底泥10cm程度を2回採取する。採集した底泥を4mm目ふるいにかけて、ふるい上に残った生物について種・種数・個体数・湿重量・主要二枚貝の殻長を把握する。	○		○
	海草藻類調査	海草藻類(寄り藻含む)の 生育状況を確認		○	○	ライン調査により、基本5m間隔で50cm×50cmのコドラート枠を設置し、生育する海草藻類の水深別分布状況、種別本数、被度を記録するとともに、連続的な植生分布、被度を把握し横断分布図を作成する。	○		○